

# 第3回

# 平戸市総合戦略策定委員会 会議録

と き：平成27年9月3日（木）13：25～15：00  
ところ：平戸市役所3階大会議室

○日時

平成 27 年 9 月 3 日（木） 13：25～

○場所

平戸市役所 3 階大会議室

○出席委員（氏名 50 音順、敬称略）

赤木、荒木、田中、寺田（勝）、富崎、西原、古川、松尾、松山、行成

○欠席委員（氏名 50 音順、敬称略）

石川、竹田、田淵、寺田（孝）、豊増

○次第

1. 開会
2. 報告事項
  - ①会議録の確認について
  - ②長崎県まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について
3. 議事
  - ①将来人口・市民アンケート結果速報について
  - ②平戸市人口推計（人口ビジョン骨子案）について
  - ③平戸市総合戦略骨子案について
  - ③その他
4. 閉会

○会議資料

- ①平戸市人口ビジョン骨子案
- ②平戸市総合戦略骨子案
- ③長崎県長期人口ビジョン(案)
- ④長崎県まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)
- ⑤まちづくりに関するアンケート調査（15～18 歳）集計結果
- ⑥まちづくりに関するアンケート調査（市民）集計結果
- ⑦将来人口の平戸市独自推計（平成 27 年 8 月）【追加】

(13 : 25 開会)

●司会

皆さんこんにちは。定刻前ではございますけれども、皆様お揃いになりましたので、ただいまから、第3回平戸市総合戦略策定委員会を開催させていただきます。

本日の司会進行を務めさせていただきます、企画財政課の小出でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

当初、8月25日に第3回の策定委員会を開催する予定でございましたが、台風15号の接近によりまして、本日に延期させていただいております。今回、石川会長が出張その他長期不在でございまして、9月中の策定委員会出席が厳しいということでございましたので、会長に了解を得まして本日の開催とさせていただいております。

本日の委員会は、7月に実施しました市民アンケートの集計結果及び平戸市の今後の人口推計の案、そして総合戦略の骨子案について提示させていただきます。どうぞ慎重なるご審議のほどよろしくお願いいたします。

本日は、石川会長の他に、竹田委員、田淵委員、寺田孝宏委員、豊増委員より欠席の申し出がございましたので、報告させていただきます。

それでは、報告事項に入らせていただきたいと思います。委員会の議長は、平戸市総合戦略策定委員会設置要綱第6条第3項によりまして、副会長に会長代理を行っていただくことになっておりますので、寺田副会長よろしくお願いいたします。

■副会長

皆様こんにちは。本日は石川会長が欠席ですので、副会長の私が代理を務めさせていただきます。

本日の委員会は、お手元にお配りしております次第に基づきまして説明させていただきます。

まず最初に、報告事項①会議録の確認について、事務局に説明をお願いします。

◎事務局

着座にて説明させていただきます。

まず、資料の確認を行わせていただきたいと思いますけれども、8月20日にお送りしておりますけれども、第2回目の策定委員会の会議録、そして資料①として平戸市の人口ビジョンの骨子案、将来人口の平戸市独自推計の表とグラフなのですが、お持ちでしょうか。あと、本日お配りしております資料が会の次第、そして資料③として長崎県長期人口ビジョン案、資料④として長崎県まち・ひと・しごと創生総合戦略の案、資料⑤、⑥がまちづくりに関するアンケートの調査集計結果、そして資料⑦として、将来人口の平戸市独自推計の追加をお配りしております。インデックスをつけておりますので、ご確認いただけるかと思っております。よろしいでしょうか。

まず①会議録の確認についてですけれども、前回の委員会の折にご説明してござい

たけれども、基本的に要点筆記ということで公開するというので、これに基づいて作成しているところでございます。第2回目の会議録の内容等につきましてご一読いただきまして、何か不明な点等がございますれば事務局の方に修正等連絡をしていただければと思います。来週中を目処に確認をしていただきまして、事務局の方まで連絡をしていただければと思います。会議録の確認につきましては以上でございます。

■副会長

今、第2回目の会議録につきまして、事務局の方から説明がありましたが、委員の皆様から何かご意見等ございませぬか。また後ほど読んでいただきまして、不明な点とか不都合な点等ございましたら、来週いっぱいということですので、事務局まで連絡をお願いしたいと思います。

それでは、報告事項②長崎県まち・ひと・しごと総合戦略（案）について事務局の方から説明をお願いします。

◎事務局

それでは着座にてご説明させていただきます。

お手元にあります資料をご覧くださいと思っております。

【報告事項②長崎県まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について】の説明

■副会長

ただいま事務局の方から、先般、長崎県が公表しております中間での人口ビジョンあるいは総合戦略の案について説明がありました。委員の皆様から、これについてご意見等ございませぬか。この総合戦略の方はボリュームが、文字が小さくて非常に見づらいところもあるかもしれません。この時間で読みこなすのは時間的になかなか難しいと思いますので、また後ほど読んでおいていただきまして、次のこの会議で議論いただければと思っております。

私の方から1点、これは作業部会があるということですがけれども、ここには今からコールしていくのでしょうか。

◎事務局

はい。

■副会長

先般もこの会議で説明がありましたが、この下に作業部会を4つ設けておりまして、その中でもこういうものをきちっと参考にして、平戸市の今現在の状況を踏まえた今後の施策を今検討してもらっておりますので、その参考材料ということで使わせていただ

くということです。これにつきまして皆さんの方から、また後ほどでも結構ですので、何か不明な点とか、わかりづらいということがありましたら申し上げていただきたいと思います。

それでは、本日の議事に入らせていただきます。

議事①将来人口についての市民アンケート結果の速報について、事務局の方から説明をお願いします。

#### ◎事務局

それでは、資料⑤、⑥アンケートの結果ですけれども、将来人口・市民アンケート結果速報についてでございますけれども、前回の委員会の折に説明をいたしております。2つのアンケートを行いました。20歳から59歳以下の市民2,500名、そして高校生500名を対象としております。内容としましては、市民の方は仕事、結婚、出産、子育て、平戸の観光等。高校生に対しましては、高校卒業後の進路、住みたい町のイメージ、平戸市のイメージ等についてお尋ねをしておるところです。

集計結果の速報の具体的な内容等につきましては、委託先の九州みらい研究所の方より行いますので、よろしくをお願いします。

#### ◎みらい研

皆さんこんにちは。九州みらい研究所の脇田と申します。失礼ですが、着座にてご説明させていただきたいと思っております。

#### 【①将来人口・市民アンケート結果速報について】の説明

##### ■副会長

ありがとうございます。今、アンケート結果についての説明がありましたが、私もこれを見たときに凝然として、やってきたつもりなのに市民の評価がこの程度という、非常にショッキングな数字も受けております。これが現実ですので、こういうデータに目を背けることなく向き合ってやっていかないといけないと思っております。

前回の委員会で、皆様方のご意見も考え方も出させていただきましたけれども、このアンケート結果を踏まえたところでご意見等、このアンケート調査に関する質問等も含めまして、今、説明がなかった項目等についても結構ですので、このアンケート結果全般についてご意見、あるいは質問等あればお願いしたいと思います。

##### □委員

一般市民用のアンケートの回収率ですね、23.8%、10人出しても2.5人もお返事をいただけていないということは、あとの7.5人強は平戸の将来に興味がないというか、言っても一緒とか、今の状態は打破できないよとか、そういう下向きの考えをお持ちの方

かなと思って、この2.5人弱は少しでも自分が意見を言えばどうにかなるんじゃないかという建設的な心をお持ちの方かなと思うんですが、このまま回答が得られなかったのではなくて、これを進めていく上では、残る7.5人の気持ちをどこかで掘り起こしていく必要があるのではないかと思います。

#### ■副会長

私も実はこの回収率を見たときに、通常はNHKなんかの世論調査でも60%ぐらいの回収率がある中で、これを見たときに高校生も3割を切っている、社会人については23%ということで、非常に驚いたところなんですけれども、ここらへんについて事務局の方から何か、理由はわからないと思いますけれども、こういうことかなという推測でも結構です。

#### ◎事務局

考えられることでございますけれども、期間が短かったのかなというのも一つの要因と考えています。それと項目が結構多いといえば多いのかなと。こんなたくさんあったら煩わしいとか、あとは無関心層と申しましょうか、あまり気にしないで出さないという方も当然中にはあると思うんですけれども、正直申しまして、3割以上の回収率はあるのかなと、事務局としては踏んでおりました。高校生に関しましても、市内の3校の学校にも赴きまして、回収の依頼とかお話を先生の方からしていただいたんですね。それでうまくいけば5割くらい回収率はないかなと期待していたんですけれども、実際開けてみたら3割を切る現状でございましたので、事務局が思い描いていた回収率よりかはうんと低い数字になっている現状でございます。

今、委員がおっしゃいましたように、本来ならば追跡という形をとるのがいいんでしょうけれども、今後、総合戦略を策定していく中で、このアンケートの満足度とか、部分的な数値が出ておりますけれども、これを満足度70%を90%にしましょうとか、そういった目標を掲げるケースがございます。そうすると、これまた5年後にアンケート取らなければ意味がないんですよ。そういったことも今後、検証の一つの手段として、アンケートも視野に考えているところでございます。

#### ■副会長

非常に回収率そのものが低いということもありますが、中身等についてご意見等ありましたらお願いします。

#### □委員

数字を見ていますと、非常にショッキングな数字になっているところが幾つか感じます。その中で、一般市民の方にアンケートをされている12ページの間16「平戸市で働き続けることができる環境であると思うかどうか」ということで、3割の人しかそう思

ってらっしゃらないというのが非常にショッキングだなと思っています。これに対してもうちょっと掘り下げて、なんでそう思うかとか、なんでそう思われてないのかというところのアンケートがあればいいなというふうに思いました。

次のページは、産業はなんですかと個別で言ってきているんですが、その答えがこれにつながるのかどうかというのがちょっとわからないなという感じがして、総合的に来ているのか、企業の問題なのか、環境の問題なのか、その辺が捉えづらいなと思ったんですけれども、それについてはどうでしょうか。

#### ■副会長

そこら辺は研究所の方でわかる範囲で結構ですけれども。

#### ◎みらい研

先ほどの課長の方からご回答いただきましたけれども、できるだけアンケートのスリム化を図った中で、当初、そこら辺への設問の方も検討してきたんですけれども、やはり余りにもボリュームが大きくなったため割愛したというところはございます。ご質問の趣旨に添うかどうかわかりませんが、これはまだ単純集計という形でご報告になっております。現在、クロス集計というやり方で、属性ごとにどういった回答だったのかなというところを作っているところですが、例えば問 16 でも、「あまりそう思わない」というのが男の人が多いのか女の人が多いのかですとか、年代的にどういった傾向であったのかということを見ていくことで、想像の範疇にある部分もありますけれども、ちょっとした傾向というのは掴めていくのかなと思い、その辺を活用しながら検討を進めていく必要があるのかなと思っていますところでは。

#### ■副会長

私もこの問 16 を見て正直驚いたところでございます。他にご意見ありますか。

#### □委員

高校生のアンケートで、9 ページで重要度を聞いているところがありますが、田舎の良さは自然の豊かさとか地域の密な繋がりが売りじゃないかなと私は個人的には思っていたんですが、若い人はこの辺に重要度は感じてないんだなと。やっぱり生活の利便性が若い人にとっては重要なところで、私たちの売りにしようとしている自然の豊かさとかそういうものに関してはあまり重要ではないなと、年齢が変わるとこうも取り方が違うんだなと感じました。

#### ■副会長

今のご意見、9 ページ、それから 14 ページの問 18、これは住みたいまちと現在の平戸市のイメージのギャップがわかるかと思いますが、ここらへんについて研究所の方か

ら解説いいですか。

◎みらい研

では9ページのお話、先ほど自然の豊かさ、地域の繋がりについては、「重要である」「やや重要である」と考えている方が8割をちょっと超える程度であります。しかし、次のページで見ていただきますと、満足度としては高い結果になっております。自然の豊かさですと95%前後、地域の繋がりについても9割前後という形で、まさしく今ご質問のあったとおり、こういったものはとても満足している。されど、自分たちの将来の生活には重要ではないということはここから見えるかと思えます。

そして14ページをご覧いただきたいと思えます。問18、これも今のご質問の内容を裏付けるような形になりますけれども、やはり若い世代の方たちがどんなものを望んでいるのかというところが青い部分になっています。現在の平戸市をどう思うかという、突出して、これも抽象的であるのかもかもしれませんけれども、庶民的が60%だとか、年配向けというのが過半数ですとか、やはりそういうイメージを持っている。ではそういったイメージを持っている方たちのUターンをどう考えていくのかというのが、まさしく総合戦略の目指すところですので、ある意味、やはり私たちというか、皆さんのご想像どおり、高校生はどう思っているんだろうなというのがデータとして手に入れられたという結果になっています。

■副会長

問18では、この前、委員のご意見にもありましたけれども、地域のしがらみが強いとか、子どもでもそういう印象を受けているのかなというのがわかるんじゃないかなと思います。他にご意見等、なんでも結構です。

□委員

一般市民の方の12ページの今後働いてみたい職業で、漁業は0%、でも平戸市の特徴だと言えるのでは農業や漁業がグリーンと出ています。イメージはありながらも就きたくはないということなのかなと思った時に、やはりイメージが、それで食べていけるかという不安と、いろいろあられるとは思いますが、そのへんが顕著に出ているなと思えました。

■副会長

いかがでしょうか、研究所、この辺の分析と言いましょうか。

◎みらい研

ちょっと間違いが無いようにちょっと補足で説明しますと、この12ページの問15-2に回答いただいた方というのは15-1で「はい」と答えた方ということになっていま



す。15-1で「はい」と答えた方というのは、現在働いていないけれども今後働きたいという方です。現在働いていないけれども働きたいな、新しい仕事に就きたいなと思う人が漁業を選ばなかったということを確認しておきたいと思います。

そういった方たちは、まだ手に職を持っていない方たちです。どんな仕事で働きたいかということの結果がここになっておりますけれども、この中には当然平戸にはあまりないような職種というの也被まれているのかなと思います。ただ、そういった今働いていないけれども今後働きたいという方たちが働ける環境を作っていく、働くような職種を増やしていくという中では、有効に活用していかなければいけないと思っています。

#### ■副会長

他に、なんでも結構ですので。

#### □委員

まず、回収率等については、学校としてもうちちょっと努力すれば良かったかなと思います。まさかここまで低いと聞いていなかったものですから、非常に申し訳ないなと思っております。

それから高校生は、うちの学校に関して言えば、大体6割が就職、4割弱が進学ということですがけれども、地元就職という希望は結構多いです。それと、高校生の15ページの間19と、大人の方の間40、現在の平戸市は住みたい、住み続けたいと実感できるまちづくりということで、高校生の方がまだ「できている」とか、「ややできている」というようなことで、「住みたい」とか「住み続けたい」という実感があるということで、大人と子どもの若干の差ですがけれども、そういったものが、大人の方は「あまりできていない」というのが50.5%で、「全くできていない」というのが8.6%、現実を見てやっているのかどうかというのがありますけれども。

うちの場合は平戸から通ってくる生徒も多いですし、高校生の時代にいろんな地域を知る、または地域のいろんなものに興味を持たせるような、地域を学習のフィールドとしてできないかなというようにすることで、前もお話をしたと思いますけれども、県立高校ですけれども、やっぱり平戸市の子どもたちが通ってきていますので、そういったものの中で連携していきながら、非常に住み続けたいと、「できている」と「ややできている」というのが大人の数字よりも多いということは、まだ何か子どもたちに、小中高合わせて何かやらせると、一回は出てもまた地域に戻りたいという子も多いですから、そういうふうなことで、子どもの頃から平戸市を知ることと、いろんなことで活動の場というか、そういったものがボランティアを含めてできないかなと思っております。以上です。

#### ■副会長

ありがとうございました。こちら辺、研究所の方から分析等お願いします。

### ◎みらい研

まさしく仰っていただいたとおりがなというふうに感じております。ご意見の中でありました現実をまだ知らないからという部分が若干のバイアスになっているかと思えますけれども、例えば税金を払う、仕事を自分でするようになったと感じた時に、平戸を見たときに下がる可能性と上がる可能性とどちらもあると思えますけれども、やはりちょっと下がる可能性の方が高いのかなというのがあると思えます。

ただ、ご意見としていただきました郷土を知る。そして平戸の良さを知っていくという事は、人口の定住を図っていく、それとUターンを増やしていくという中で重要な施策か感じております。その辺のアイデアという部分をどのような施策として実現していくかということ、やはり市として十分考えていかなければいけないことだなと感じております。

### ■副会長

確かに、平戸の良さはいっぱいあるんですけども、それが小中高、特に義務教育の段階での教えるといいますか、そういうのが非常に少ないということで、これは教育委員会の方にも話をしておりまして、いろんな学習の場で平戸の良さとか歴史とか、職業体験も含めたところでいろんな形でやっていただくように教育長の方には話をしております。

大人の14ページ目の問18で、これは雇用の問いなんですけど、その中で若者を対象にした就業支援ということでインターンシップ等ありますけれども、やはりこういう一つの手段としてインターンシップ等を使って平戸の良さといいますか、職業体験等を通じた中で平戸の良さを知ってもらおうと、将来の一つの自分の生活する道筋を見つけてもらえればなという気もします。

他にご意見等ありませんでしょうか。

### □委員

市民の方の14ページの間18ですね、雇用安定、充実させるためにどのような支援策をしたら良いかということで、一番上の雇用創出策、それとか3番目の若者を対象にした就業支援とか、下から3番目の職業能力開発支援、こういったのが40%以上、こういったところを市の方も努力されておって、商工会議所さんも創業支援のセミナーとか、かなり参加されているという状況を見ています。若い方もかなり参加されているというのを感じております。そういった方々をやはりもっと支援できないか、やはりやりたいと思う心を支援していけて、若者がやはりこういう事業をしたいんだと盛り上げていけるような、まち全体での応援がもっと大事になってくるんじゃないかなということで、希望の50%近いところからやっていければいいのかなと感じております。

■副会長

今の件に関して何かご意見がありましたら。

□委員

今創業のお話があったんですけれども、うちは平戸市産業振興部と会議所と商工会で創業支援をやっているんですが、受講者が約30名ほどおります。私たちはあまりいないんじゃないかということで始めたんですが、蓋を開けたら以外に多かったと。その中で今年度創業者数ということで目標数値を上げています。一応14件創業目標ということでやっています。受講者30名の中に確実に創業するというのが3名おります。私たちが思っていた以上に創業を考えている人が多い。現実的に創業したいという人もいるということで、このビジョンの中にはやはり創業というテーマを大きなテーマで、私たちは枝葉の部分は今後つけていきたいなと考えております。

それと、先ほど委員さんからアンケートの回収の件で一言言わせていただければ、まずこの大人の方ですが、かなり少ない。ですから、これは結果論なんですけれども、ここには皆さん団体の方がいらっしゃいます。ですから団体で何枚取ってこいというふうな支持をしていただければ、確実に最低限の枚数は確保できたかなと思います。

それと学校の方なんですけれども、なんで先生たちが強制的に、あなたたちの将来のことですよということで、なんで強制的に、先ほど6割超えという話があったんですけれども、本来なら100%です。100%先生たちが生徒さんにこういうことでこのアンケートをするということで、100%取るような体制がなんでできなかったのかなということを感じました。私が思うには、高校生については出していない人はもう一回出してもらえんかというような指導をしていただいて、もう一回作り直したほうがいいんじゃないかというふうに私は思います。

□委員

今の意見について、非常に高校の校長として非常に申し訳ないなということで、もうちょっと学校の方で残してでも書かせるというようなところまで、子どもたちを信じて、担任を信じてしている部分があったものですから、今言われたように、もしあれであれば、高校3校だけですからね。

□委員

取りやすいと思うんですね。生徒さんの方が。

□委員

非常に申し訳なかったなと。1ページ開いて非常に申し訳ないなと思っております。

□委員

先生を責めているわけではないんですが。

■副会長

高校生に限って7割近くが出していない。全部がどうかわかりませんが、仮に今から期限を区切ってした時に、今2学期が始まっていますけれども、この集計の作業のスケジュールといいますか、そのへんはどうでしょうか。

◎みらい研

集計自体は、対象の数が少ないので、いただくことができれば、いただき終わってから1週間くらいで再度このアンケートの報告書等を作り変えることはできます。ただ、何分学校でのご協力がいただけるということで、そこらへんについても一度細かい打ち合わせが必要なのかなと。開始したら授業後、放課後に残ってでもという形で回収期間を1日、2日で対応いただけるのであれば、この戦略に活かせる余地は出てくるかと思いますが、1か月経たないとという状況だとやはり計画が進んでいる中ですので、そのへんのスケジュールで対応できるかと思います。

■副会長

今の件については校長先生、事務局等含めまして、3つの高校もありますので、早急に。

□委員

精度を上げるためには協力できるものは協力しなければと思いますので。

◎みらい研

ここについて一言だけ申し上げさせていただきますと、例えば進学がメインの学校に回答していただく、1校しかご協力得られない場合と、就職がメインの学校が協力いただく場合だと、全体的な回答結果にブレが出てきます。やはり全ての学校のご協力がいただけるという体制でやらないことには回答結果がぶれてしまいますので、おかしくなるかなと思っております。

■副会長

それでは帰りましてから残り2つの高校について、事務局と調整の上で。

□委員

事務局と調整して、どういう形で誰がしているか、申し訳なかったんですが、どれくらいがうちに来ているのかもわからないので。

## ■副会長

高校ごとの数字もわかっているでしょうから。

## ◎事務局

このアンケートが無作為抽出ということで、どこの高校の誰それというのがわからない状況なので、対象者が1,000名おられます。大体500名、半分位が対象になっているということの中で、各学校におかれても、クラスの方でアンケートが来てるんじゃないかということをおっしゃって、来てましたよと、そしたら持ってこいよと言われていた状況かと思っておりますので、それを知らないと言えればそれで終わってしまう状況です。

## ■副会長

そこが先生、事務局とも後ほど話をさせていただきたいと思っております。他にご意見、ご質問等ありませんでしょうか。

## □委員

大人の方の14ページで、委員さんの方から創業支援というようなこと等お話があつて、若者を対象とした就労支援ということで、うちは来年から食品化学科から食品流通科、一つは食品開発コースと、もう一つは食の六次産業化コースというふうなことです。ただ我々は、言葉自体は知っていますけれども、やはり地域と密着しながらそういったものを教育の中に入れていきたいと思っております。高校生だからすぐ創業するわけではないんですけれども、高校時代にそういうセミナー、そういった計画力をつけさせるようなものとか、地域の産業がどういうものがあるのかとか、そういったものを高校時代に身につけさせれば、地元に残って何かやりたいなと、Uターンして何かやりたいなということで、六次産業化への生きた教育というのを、やっぱり地域と一緒にやらないと学校だけではなかなかできないということで、もしよろしければそういったことも含めて、若干違うかもしれませんが、やはり子ども達が将来平戸に残りたいと思わせるためには、やはり小学校、前回委員さんからもありましたけれども、そういった小中高が一体となった教育の中に、やはり地域というものを十分入れていった上で、うちの場合には農業高校ですから、その食というものを念頭にやりますので、何か地域とこういった形の中でコラボできないかなと。

私は今、この間MRとコラボして、スクールツーリズムということで、2日間で70名近く来ました。ほとんど佐世保からだったんですが、遠くは福岡からも来たんですね。ということは、やっぱりそういうことで交流人口というものが来るんだなと、その方は日帰りで帰ったんですけれども、将来的にはそういったものが来た中で、1日目は昼間うちにおいて、その後平戸観光に行ったり、平戸の民泊とか、そういったものにつなげていけないかなと。高校生もそれに伴ってガイドをしたり説明したりすることによって、うちの生徒は大人しい子が多いんですけれども、すごく自信につながって、そういったも

ので地域と何かできないかなと。特に市、あるいは市の団体とそういったことがやれないかなと思います。高校生の時にいろんな意味で平戸の地元を知るという機会と、そういった中で地元の将来地元で起業を起こすんだとかいうようなこともできるようなセミナーみたいなものがあれば、非常に高校生にとってもいいんじゃないかなと。これは私の個人的な意見かもしれませんが。

やっぱり今は高校が非常に減ってきている。うちが4から3に減りますので、高校生、特に県北の平戸、松浦は減ってきております。その中で生徒数は減ってくる、人口は減ってくる、それで今後の平戸をどうするかということを考えてときに、やっぱり若年層、小中高くらいから平戸のことを考える機会といいますか、知るということから初めていけば、その知るから次につながっていくんじゃないかなと思いますので、このアンケートと若干ずれますので、書かなくていいところですけども、そういったことがアンケートの最後の方の結果にもつながっていくんじゃないかなと思って。そういうのがあればアンケートに対する意識も高まるんじゃないかなと思って反省しております。

#### □委員

今、校長先生がおっしゃったことに関してですが、今、平戸市内各小学校区単位にしてまちづくりというのが立ち上がろうとしています、度島とかは稼働している状況なんです、その中で地場産品を使って、何かお土産を考えましょうという動きがあるわけです。そういうところに高校生の力を借りて、地場産品を使ってお菓子とか、何かできないかなと、そういうアイデアを高校生からもいただけたらいいかなと、今いいことを言ってくださったなと思いました。

#### □委員

私のところは食品を製造する施設がありますので、それとか…。

#### ■副会長

アンケート結果等について他にご意見があればどうぞ。

#### □委員

さっきの校長先生の話と似通っている部分もあるんですが、この高校生に関するやつはもうちょっと数が増えれば面白い話だなと思います。将来就きたい職業とかで、農業、林業、漁業合わせて2.1%ぐらいということで、基幹産業に就きたいと考えている若い子たちが2%ぐらいというのは、将来帰ってきたくても基幹産業に就きたい子は少ないというミスマッチがまずあっているんだろうなと。

私は長崎市出身なんですが、平戸とかは漁協もたくさんあるし、農業とかも結構色々やられていて、子どもがそういう大人の漁とかにくっついて、一緒に魚採ったりとか、一緒に野菜作ったりとか、そういうことをやっている子が結構多いのかなというイメージ

ジだったんですが、以外とそういう子は少ないんだなと。この前の子ども議会でも、中野中だったか、中部中だったかの子が、新聞記事でイカ柴を入れたと、そういう記事を見て、僕もやってみたいと思いました。普段そういうことをすることがないので、地域の仕事とかを私たちはもっと知りたいですというふうなことを中学生の子たちが言っていたんですね。だから意外と地域の産業とかというのをあまりみんな知らないんだなというのは、その子達の話聞いてすごく思ったんですね。ですので、こういった低い割合というの、たぶん知らないから、どういう楽しさがあるかってどういうきつきがあるってとか、イメージはあるけどよくわからないというのがやっぱり一番大きいからこそ、こういう数字につながったのかなと思いました。

ですから、総合戦略の中でも、教育関係とか子育て関係とかあると思うんですが、例えば子ども達の役割みたいなことで、例えば平戸検定を高校生までに初級を取っている人を何人まで増やすとか、そういう子ども達の目標、子ども達が主体となる目標というのを入れていくと、これから先を支える、次世代を担う子ども達が主体的に関わるということが出来るんじゃないかなと、そういうきっかけみたいなものを作ってあげるとより効果的なものになるんじゃないかなと。大人たちが上からこれをしなさい、あれをしなさいじゃなくて、何か子ども達が主体的に関わっていけるような仕組みというか、そういう内容を入れてもいいんじゃないかなと思いました。

#### ■副会長

今の件に関して事務局いかがでしょうか。今後検討するということで。

#### ◎事務局

今日は皆様の総合戦略のお話に入られていらっしゃるんですけども、今日あったことは当然、個別の4つの分野に分けて、それぞれこういう話がありましたというように伝達を必ずいたしますので、その中で取り込んでいたり、包含していたりというやり方をさせていただきたいと思います。

#### ■副会長

他にご意見ありませんでしょうか。どうぞ。

#### □委員

今、委員が子どもが大人の仕事を知らないという話がありましたが、まさにそういう感じで、新聞記者だと色々な行事取材するわけですけども、自分の新聞業界のことは大体わかるじゃないですか。どういう仕事なのか。ほかの業種、農業とか林業とか漁業とか、取材をするけど、取材しないとわからないことは山のようにいっぱいあるわけで、そういうのをやっぱり基幹産業の代表的なものだけでもいいですが、ホームページとかで、この人はこういうような仕事で、代表的なこんな仕事がありますみたいなも

の、子どもとか、あるいは移住者とかでもそれを見て、平戸ってこんな仕事の可能性があるんだみたいなものを整備する必要があるんじゃないかなと思います。

■副会長

そこは確かにおっしゃるとおりかもしれません。

□委員

一般の市民の 31 ページと 33 ページなんですけれども、住み続けたいというところで重要だと感じていらっしゃるところで、青色の 1 番は重要だということだけ取ったんですけれども、次世代を見据えたところの地域産業振興とか、新たな産業の創造ですかね、そういったところが割と重要と考えていらっしゃるんですけれども、反対に満足度からいくと、新たな産業の創造については不満という数が多いみたいなんです、あと、次世代を捉えたところの地域産業の振興というところも、やはり不満と感じていらっしゃる方が多いということであれば、実際ちょっと今後新たな産業の創造ということで、どういった形で作っていくのかということのも一つあるんでしょうけれども、校長先生が言われたように、地域の地場産品あるんで、そういったのを商品化していきながら新たな産業に結びつけるとか、農業とか漁業も盛んなところなんで、そういったところを活かしながら、新たな産業とかが作れば、どう作っていけばいいのかというのは難しいので、そういったところを何か将来的な展望とかは、市の方でもしお持ちであれば教えていただきたいと思います。

■副会長

ここではまさしく今、検討部会、作業部会の方で検討しておりますので、今のご意見を踏まえまして再度アンケート調査結果も踏まえて、これだけ低い数字ですので、さらに検討を加えていただきたいと思います。

□委員

一次産業の後継者問題なんですけれども、私が思うには、私は実際農業をやっているんですが、6反ほど米を作っているんですが、やはり農家の方、漁業の方が、自分の子どもに田んぼと一緒に来いとか、漁と一緒に出るとか、実際あまり、子どもと親が漁をしている現場とか、田植えをしている現場とか、あまり見ないんです。ですからそこは親の教育だと思うんですけれども、私たちが関わっている加工製造の方々は意外と家内工業で、家の中に工場があったりするものですから、ちょっと手伝えということで、身近な親の仕事場があるものですから、意外と小さい頃から身につけているんですが、果たして一次産業の漁師の方とか、農業の方はどうか。私はあまり目にしないものから、そこから家を継ぐか、別の仕事をするか進学するかという方向に行っているんじゃないかなというふうに私は感じています。ですから、そこらへんのアンケートで実



態はどうかということも取ってみながら、今後の一次産業の振興、発展に何か役に立てられればなというふうに思ったりもします。

■副会長

他に。とりあえずこのアンケート調査結果につきましては、これで一旦締めまして、またご意見等あれば事務局までお願いします。

議事の2番目、平戸市人口推計について、事務局より説明をお願いします。

◎事務局

資料が皆さんのお手元にあると思いますけれども、最初にA4の2枚組、資料⑦の分の説明をさせていただきたいと思います。

【資料⑦について】の説明

■副会長

今、事務局の方から、将来の人口推計について説明がありました。皆さんからご意見等ありませんか。

□委員

確認なんですけれども、この2020年が29,687人とあるんですが、これは社会減と自然減を加味した予想人口ということですか。

◎事務局

この2040年に社会移動が均衡する。転入転出がゼロになるという前提、ほとんどの行政の市町村はこの2040年を採用するケースが多いです。先ほど申しました県におきましても2040年で均衡するという前提の元の数値です。そういう作りであります。しかしながら、やはり25年後に転入転出がゼロになるのかというところは高いハードルであると認識いたしております。かなり難しい数字だと思います。ただ、統計的には2040が大半を占めてくると思っておりますが、やはり60年にするか40年にするかで20年差がある。ここをどう見るかにかかってまいります。その中で、60年という長いスパンで考えるか、もう少し短くして2040年にするかという中では、平戸としましては2040年、近場の数値の方を選択した次第であります。

■副会長

他にご意見ありませんでしょうか。

□委員

私は度島なんですけれども、度島では3人、4人が当たり前なんで、結構出生率が高いと思うんです。平戸も昔はそうだったと思うんですが。沖縄とか小笠原とか離島部は出生率が高いと聞くので、そういうところを参考にされてもいいのかなと思いました。

私は島外から来ているのでびっくりしたんですが、度島の子は、男の子が意外と普通に子どもに接しているんです。うちの下の子は4歳なんですけど、高校生が普通に遊んでくれるんです。そういう光景を目にすると、小さい頃から子どもと接するとか、触れるとかしていたら、将来子どもを多く欲しいなとか思うのが違うのかなと思いました。そういう取り組みを基幹産業などと一緒にされたらどうかと思います。

#### ■副会長

これはまた部会の方でも言っていただきたいと思います。他にご意見ございませんでしょうか。ないようでしたら、人口推計については、⑧の数値を使ったところで総合戦略を組み立てるということでやりたいと思います。

それでは、本日の議事の③平戸市総合戦略骨子案について、事務局から説明をお願いします。

#### ◎事務局

その前に申し訳ございません。人口ビジョンの骨子案につきまして説明しておりませんでしたので、説明させていただきたいと思います。先にお配りさせていただいております。

#### ■副会長

資料①の8月20日に皆さんのお手元に届けられている資料①をご覧くださいければと思います。説明をお願いします。

#### ◎事務局

【議事②平戸市人口推計（人口ビジョン骨子案）について】の説明

【議事③平戸市総合戦略骨子案について】の説明

#### ■副会長

ただいまの人口ビジョン、それから総合戦略の骨子案につきまして説明がありました。現段階での案ということですから、委員の皆様のご意見等ありましたらお願いします。

今初めてということでしょうから、これは既に送っておりましたが、アンケート調査結果等を踏まえて前回のときに意見をいただいておりますが、新たに意見とか考えとか、こうしたらどうだろうかということもあるかと思っておりますので、それは事務局の方に

できますれば書物で送っていただければ、それを作業部会の方に下ろしまして、それを含めて検討していただきまして、次回の骨子案がより肉付けされたものになるような形で進めていきたいと思っております。

他にございませんでしょうか。先ほど申しましたように、あとは資料等を持ち帰っていただきまして、ご意見とかこうしたらいいんじゃないかというものがございましたら、事務局までFAXあるいはメール等で送っていただければ、それを踏まえて対応していきたいと思っております。なおかつ、先ほどの高校生のアンケートにつきましては、事務局の方とちょっと詰めてみます。

皆様の方からご意見等ございませんでしょうか。

事務局の方からその他について何かございますか。

#### ◎事務局

特にはないですが、次回、第4回目の日程なんですけれども、10月の下旬から11月上旬について予定をしているところです。本日お示ししました人口ビジョンの骨子案と総合戦略骨子案の内容を充足させて原案という形でご提出するようになるかと思えます。詳しい日程につきましては会長と協議をして、後日ご連絡させていただきたいと思えます。

#### ■副会長

できるだけ多くの委員が出席できるような形で、日程の調整は早目にさせていただければと思えます。

他に何かございませんでしょうか。ないようでしたら、本日の議事、無事終了いたしましたので、事務局の方へお返しいたします。

#### ◎事務局

以上で本日の内容等につきましては終了させていただきます。

次回の委員会につきましては、日程調整をするような形で、皆さんが多く出席できるようにしていきたいと考えております。

それでは、今後ともよろしく願いいたしまして、本日の方は閉会させていただきたいと思えます。どうもありがとうございました。

(閉会 15:00)